

日本白鳥の会第二回総会における 研究発表と情報交換のあらまし

松井一

午後の議題に入ります。談事事項は終わったので、私の議長は免除かと思いますが、一応司会だけやらせて頂きます。自己紹介と各地の資料及び情報交換というのですが、これは南から参りますか、北から参りますか。去年は7分のはずが30分。短い時間に要領よくお話しがいます。

玉田一

網走市のすぐそばに湧湖があります。反対に湧湖のそばに網走市があるといってもよいと思います。50人ばかりの中学生と一緒に白鳥の観察を続けております。



〔発表する玉田誠氏（右）〕

印刷物をお上げしてありますけれど。

紙上面の都合上、貴重なデータの大半を省略せざるをえませんでした。（編集部）

<雪面助走の計測記録－離昇型>

2頁にあるのが白鳥が雪の上を走って飛んだ時の足跡を計測したものでございます。それを沢山調べてみると一番最後の足跡の巾がそのひとつ前の巾より狭いのと、最後の跡がひとつ前より広いのとふた通りあることがわかりました。多分これは羽をうち下した時にはなれたのと、羽を引上げ

る時にはなれたのと二つあるのではないかと思います。広い狭い、広い狭いをくり返して行ってだんだん広がっていく。

これは羽の動かし方とだんだん加速して行くために歩巾が広がって行くのではないかと考えます。一番最初の歩巾は必ず広い、おそらくこれは鳥が氷の上を走る時に羽を開いておいて下しながら一歩ふみ出す習性があるものと考えております。風がない状態では25m前後であがって行く。短いのはおそらく風の強い日じゃないかと思えます。

<雪面着地の計測記録－着地型>

次に3頁にありますのは白鳥の雪の上へ下りた時の状況を書いたもので、これを見ると両足をそろえて下りてくるように見えるが、実は両方の足を一緒にブレーキをかけるのではなく左右交互にブレーキをかけるのか、一方を強く押しているのがわかる。

両足一緒に下してきて一緒にブレーキをかけるものの中にはあります。下の方の17番です。

<白鳥相>

5頁は白鳥の顔で、どこか何か違いがあるのではないかとあって斜め前から見て黒味がかっているのがどうなっているか。成鳥になれば5頁の一番上の黒味が大体普通のもので丸印をつけたところが違ってくる場所です。沢山種類があって黄色い所に斑点があるのですがそのうちのいくつかをそこに上げておきました。

<白鳥の食道について>

その横の図は白鳥が餌をのみこんでいるところ。解剖学的にはどういうことになっているのか、パ

ンの塊りをのみこむのを見ていると、素直に真直に下りて行かないで、横にねじれて下りていく。右の方へずれていく。全部がこういう風かどうか。12・3例は見ています。

<4月22・25日の飛去目撃>

6頁は大体湧漉湖から春、白鳥が飛ぶ時にはオホーク海へ出る。上の方は大体1時間半か2時間の間に見たわけです。海へ出て能取岬の方に飛んでいく。

<話題の白鳥たち>

10頁にあるのは首を曲げて飛ぶ白鳥です。72年4月に最初発見した訳です。小湊の畠山さんの観察では飛ぶ時には首は曲げていないという。水面にいる時も曲げていない。曲がっていないということです。その後今年の3月に子供が発見しまして、私も4月20日に飛んで行く姿を、やはりこれと同じ状況で見ました。従って丸2年とにかく元気であるんだと。

上の絵は写真から書いたもので、今年は陸に上って遊ぶのが増えまして、多い時は50羽も上っていた。下の方は幼鳥ですが、5羽いるうち、3羽は時々首を曲げる訳でいつも曲げている訳ではなく、泳ぐ時は真直にしているが、どうかすると首を曲げる。くせになっているのか。

<白鳥の故郷(繁殖地)>

次の12頁13頁は白鳥はどこへ帰るのだろうか、シベリヤだと普通言うけれどシベリヤの何処だということは、私もわかりません。そこに書いてあるように根室市観光協会が説明板にかいてあるのを写して来たもので、それを見るとアナデル半島、コマンドルスキー諸島、コリマ河、キルギス草原、ウスリーカルタイ地方となっている。一応地図を書きまして当たってみたもので、実際に

どの辺かわかりません。くわしく御存じの方がいらっしゃいましたらお教え頂きたいと思います。

<主要地区に憩う白鳥数の変動>

次に14頁、15頁は、湧漉湖にも白鳥がいるということですから、いちがいでどこということではなく、左上に区分してあります。そういった場所場所でどれ位いるのかということグラフにしてみたものです。大体観察はA₁と書いてある方から始まってFの方まで。時間は大体この間が15分位。従って鳥の移動という誤差はあまり入っていないはず。数が多くなれば多少の誤差はあると思います。

<北浜市街における飛来目撃>

17頁-18頁、19頁 子供達が白鳥が飛んで来たというのを一応記録してある訳です。この外の所も沢山飛んでいると思いますが、一応北浜の町の辺りで飛んで来るのはそういう状況であります。

<4月中・下旬の白鳥数・1969~1974>

20頁-21頁、最近5カ年間、春一番増える時期の前後を抽出して書いたもので4月20日前後この辺りが一番数が増えるということでございます。

<北浜開水面白鳥数>

22頁-23頁は今年春の状況でございますが、22頁23頁24頁の始め辺りの数は正確だと思っておりますが、その後4月に入って1,000羽を越える日の場合は1,300羽も1,200羽も実際の数はそう変わっていないと思います。数え方によって違って来るもので、大体の数はきまっています。しかし1,300羽と1,800では実際に数も違っていると思います。